

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 横川中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります、その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年(国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語204人	社会204人	数学204人
	理科204人	英語204人	

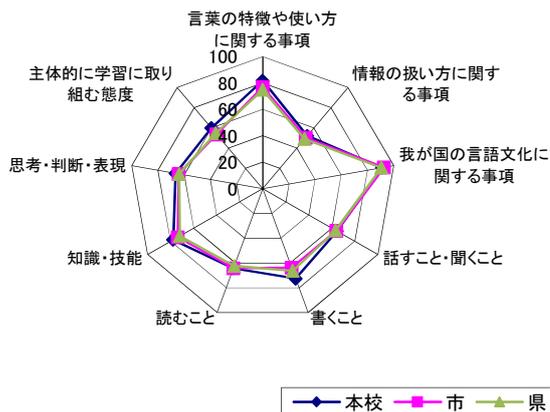
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	81.9	76.9	74.9
	情報の扱い方に関する事項	52.2	50.3	49.2
	我が国の言語文化に関する事項	91.2	92.6	90.7
	話すこと・聞くこと	64.5	64.2	63.4
	書くこと	72.5	63.7	66.4
	読むこと	64.3	64.2	62.5
観点	知識・技能	77.7	73.7	71.9
	思考・判断・表現	66.5	64.1	63.8
	主体的に学習に取り組む態度	60.0	53.8	54.8



★指導の工夫と改善

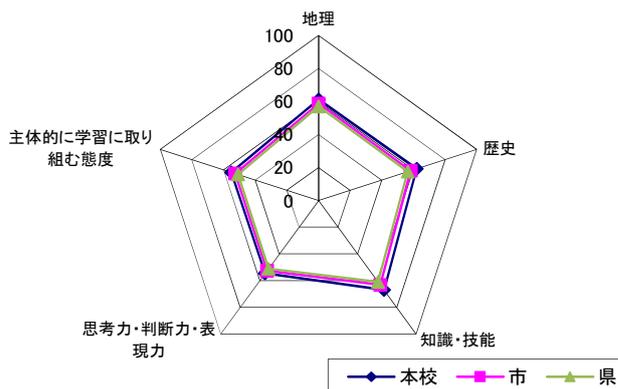
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○小学校で学習した漢字を書く問題の正答率は、県の平均を20ポイント程度上回っている。また、中学校1年で学習した漢字を読む問題の正答率も、県の平均を10ポイント程度上回っていたり、正答率100%の問題も見られたりした。 ●文法の問題については、県の平均と同程度の正答率だが、50%を下回っており、1年生の文節の単元の習得を図る必要がある。	・小学校の既習漢字について8割程の生徒が理解できているので、漢字の字形のみを理解させるのではなく、短文などの学習を通して、文の中での使い方も含めて習得させる。 ・文法については、文節や単語などを「言葉の単位」として理解させることで、「読むこと」の領域の単元においても、文法を意識できるようにさせる。
情報の扱い方に関する事項	○情報と情報の関係性に着目する問題の正答率は、県の平均を3.4ポイント上回っている。 ●情報の関係性について、関係を正しく捉えられていない生徒が20%程度いる。	・説明的文章の単元の学習を通して、図や表など複数の情報から必要な情報を正しく選択できるようにさせる。また、複数の情報同士の関係性について、関連付けることができるようにするために、段落相互の関係性についての読解を行わせる。
我が国の言語文化に関する事項	○歴史的仮名遣いについての問題の正答率は、90%以上であり、市、県の平均も上回っている。	・文法の音便の学習などでも、「発音の変化」ということに着目させ、仮名遣いも「発音の変化」であるということを理解させることで、単元同士の関連付けを図らせるようにする。
話すこと・聞くこと	○話し合いの内容を聞き取る問題の正答率は、市、県の平均を3ポイント程度上回っている。 ●話題の展開を捉え、互いの発言を結び付けて考えをまとめる問題の正答率は、県の平均を上回っているが、39.7%である。また、無解答の生徒も13.2%である。	・話題の展開について捉える力を身に付けさせるために、説明的文章の単元などで、筆者の「主張」や「根拠」について区別できるようにさせる。 ・小グループでの話し合い活動において、発言の真意をお互いに確認する場面を設定させる。
書くこと	○文章を書くことに関する設問の正答率は、全て県の平均を7ポイント程度上回っている。また、無解答率についても、市、県の平均を6ポイント程度下回っている。	・自分の考えを明確にして言葉にすることや、書くこと自体に対して抵抗がある生徒は、多くないことが分かる。更に「書くこと」の力をつけていくために、授業中に空欄に当てはまることを補う問題を用意したり、適宜短文等を書いたりさせるなど、より一層書くことの習慣づけを図っていく。
読むこと	○文学的文章の読解に関する設問の正答率は、ほとんど7割を超える正答率で、県の平均を上回っている。 ●説明的な文章の読解に関する設問の正答率は、県の平均を上回っているが、文章の構成や展開に関する質問の正答率は、44.6%である。	・文学的文章の読解に関して、場面の展開をきちんと理解している生徒が多いことが分かる。更に読解力をあげるために、物語全体の中での各段落同士の関係性などを把握できるような授業展開を行っていく。また、説明的文章については、段落相互の関係性を把握させるために、接続詞の働きなどに着目させるようにする。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	61.2	58.7	57.0
	歴史	62.1	58.3	56.4
観点	知識・技能	67.0	63.1	61.0
	思考力・判断力・表現力	54.6	52.5	51.1
	主体的に学習に取り組む態度	55.1	52.6	50.8



★指導の工夫と改善

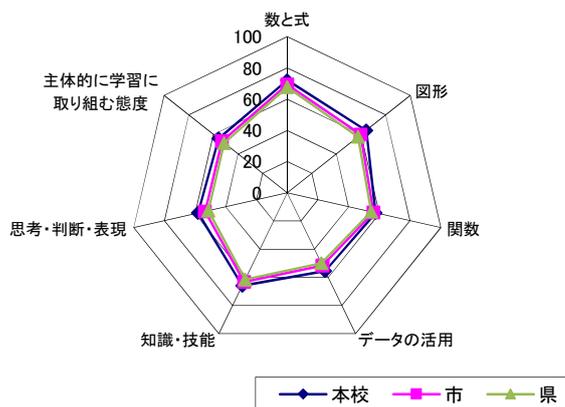
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>○県平均を4.2ポイント上回った。</p> <p>○「世界の姿」「世界各地の人々の生活と環境」の内容では、すべての項目で県平均を上回っている。</p> <p>○おおむね県の平均以上で、10ポイント以上上回っている設問もある。</p> <p>●農業に関する内容で、特に「資料をもとに考察している」という設問で、県の平均を下回っている。</p> <p>●都道府県についての理解が十分ではない。</p>	<p>・タブレット端末で、写真資料や地図資料を調べる活動を通して、興味・関心をもたせるとともに、資料活用の技能を伸ばせるようにする。</p> <p>・日本の諸地域の学習で、農業の特色を複数の資料から読み取る活動を実施する。</p> <p>・AIドリルを活用し、基礎基本の定着をより一層図る。</p>
歴史	<p>○県平均を5.7ポイント上回った。</p> <p>○「飛鳥時代～平安時代」「中世の日本」の内容は、すべての項目で県の平均を上回っている。</p> <p>○おおむね県の平均以上で、10ポイント以上上回っている設問もある。</p>	<p>・「主体的・対話的で深い学び」を実践に向け、発問や授業構成を工夫した授業を実践する。</p> <p>・AIドリルを活用し、基礎基本の定着をより一層図る。</p>

宇都宮市立横川中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	72.1	69.3	67.7
	図形	64.2	59.8	57.7
	関数	57.5	56.2	54.7
	データの活用	55.4	51.6	49.9
観点	知識・技能	65.9	63.2	61.5
	思考・判断・表現	58.1	53.5	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	55.7	53.0	51.2



★指導の工夫と改善

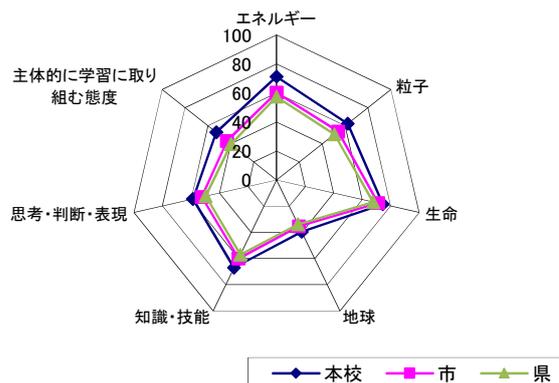
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○市の平均、県の平均よりも上回っている。 ○問題ごとに見ても1項目以外(後述)の分野で県の平均を上回った。 ●負の数の大小関係の選択問題の正答率が県の平均を2ポイント下回った。	・県の平均値を上回っている項目が多く、基礎基本の定着が図れている様子が見られる。ここを基盤としながら応用問題へつなげるため、実践的な問題に取り組ませたい。
図形	○市の平均、県の平均よりも大きく上回っている。 ●移動を説明する問題が県の平均と同程度(0.8ポイント上)であった。考えを言語化することにやや課題が見られる。	・図形の性質を言語化する力は、今後図形の証明などで必要な力となってくるので、なぜそうなるのかを論理的に伝えあい、理解を深めさせる活動を取り入れていきたい。
関数	○市の平均、県の平均よりも上回っている。 ●ともなって変わる数量を答える問題で、県の平均よりも大きく下回っている。(8.1ポイント)	・比例、反比例と決まった変化をするものの設問は市の平均を上回っており、授業で性質を確認しても覚えている生徒が多いことから、ある特定の性質がなくても、ともなって変わる2つの数量に着目しその変化を追っていけるように考え方を広げさせたい。
データの活用	○市の平均、県の平均よりも上回っている。 ●累積度数を答える問題の正答率の平均が、県の平均よりも1.3ポイント下回っている。	・資料から読み取った傾向をもとに説明する問題に対する取り組みがよく、正答率も高い。今回下回った累積度数の問題は新しく取り入れられた分野なので、重点的に復習し、言葉の意味をしっかりとらえられるようにさせたい。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	71.3	60.3	57.4
	粒子	62.2	53.8	50.7
	生命	74.5	71.2	67.8
	地球	39.5	35.3	33.8
観点	知識・技能	66.9	59.9	57.0
	思考・判断・表現	58.6	52.4	49.7
	主体的に学習に取り組む態度	52.8	43.3	39.8



★指導の工夫と改善

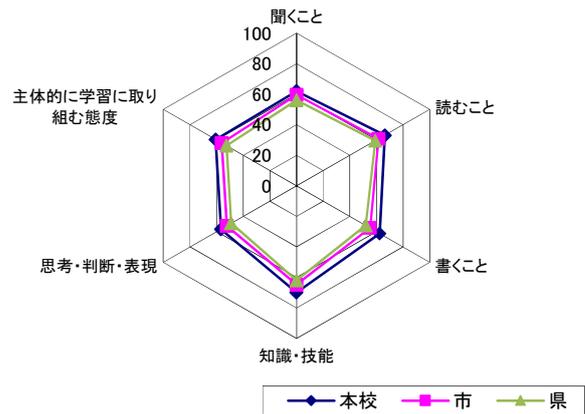
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>○光の屈折と虹が七色に見える理由を関連付ける問題の正答率は県の平均を16.9ポイント上回っている。</p> <p>○重力とばねの伸びの関係をグラフに表す問題では、県平均を21.0ポイント上回っていた。</p> <p>○全体として用語の知識を問う問題の正答率は90%を超えており、基礎的な知識は定着している。</p>	<p>・虹などの身近な現象に結びつけて考える力は身に付いているので、興味を引くような教材を用意し、引き続き指導していく。</p> <p>・比例の関係を見だし、グラフ化することはできているので、その結果をもとに計算する力を身に付けさせていく。</p> <p>●知識はかなり定着してきているので、実験の結果や誤差について考える力を育てていく。</p>
粒子	<p>○質量パーセント濃度を求める式についての正答率が県平均よりも、20ポイント以上上回っており、式の理解ができている。</p> <p>●ほとんどの分野で県平均を大きく上回っている中、金属と非金属の分類については県平均とほぼ同等であり、金属の特徴や例についての理解が不十分な生徒が見られる。</p>	<p>・金属などの分類において、何が基準であるかを明確にし、主な例について理解させる。</p>
生命	<p>○ほとんどの問題で県平均を上回っており、理解が深いと考えられる。特に、双子葉類と単子葉類の分類に関する問題については、県平均よりも20ポイント以上上回っている。</p> <p>●動物の生活場所を基準とした分類の問題で県平均を7ポイント下回った。</p>	<p>・植物の分類においては正答率が高かったものの、動物の分類においては理解が不十分な箇所が見られた。動物の分類ではあらゆる基準があるため、主な基準について整理させ、実際に分類させる演習が必要であると考えられるので、補充学習に取り組ませたい。</p>
地球	<p>○地層の特徴から、地層が堆積した当時の環境の変化を読み取る問題では、県平均を10.0ポイント上回っていた。</p> <p>●地震に関する問題では、他の分野より県平均を上回ったポイントが小さかった。</p> <p>●柱状図から読み取れることを考えて記述する問題の正答率は13.7%とかなり低い数値であった。</p>	<p>・地震に関する問題は、栃木県立入試でも頻出の分野なので、演習の機会を増やし定着を図りたい。</p> <p>・柱状図は、「地層の繋がりや傾きを見るために必要なものだ」ということを意識させて指導をしていくことで、柱状図の見方や論理的な考え方を定着させたい。</p>

宇都宮市立横川中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	62.0	59.6	56.1
	読むこと	66.3	61.6	59.1
	書くこと	62.4	55.2	51.9
観点	知識・技能	69.9	64.7	61.9
	思考・判断・表現	56.8	52.4	49.1
	主体的に学習に取り組む態度	60.7	56.1	52.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○市の平均のポイントを2.4ポイント、県の平均を5.9ポイント上回っている。</p> <p>○対話の内容を聞き取り、適切に回答する問題の正答率が高い。</p> <p>●様々な英文を聞き取り、たずねられたことに対して自分の考えを英語で答える問題の正答率が低い。</p>	<p>・英文の概要を捉えたり、要点を聞き取ることが苦手だと感じている生徒が見られるため、授業でリスニングに取り組む機会を増やしていきたい。</p> <p>・自分の考えを英語で答えられるようにするため、自分の考えを英語で表現する機会を増やしていきたい。</p>
読むこと	<p>○市の平均のポイントを4.7ポイント、県の平均を7.2ポイント上回っている。</p> <p>○長文を読み取り、内容を把握する問題の正答率が高い。</p> <p>●様々な英文を読み、必要な情報を読み取る問題の正答率が低い。</p>	<p>・問題演習を積み重ねることで定着を図る。</p> <p>・必要な情報を読み取る問題を解けるようにするため、長文に慣れ親しませる機会を増やしていきたい。</p>
書くこと	<p>○市の平均のポイントを7.2ポイント、県の平均を10.5ポイント上回っている。</p> <p>○まとまった内容で英作文を書く問題の正答率が高い。</p> <p>●与えられた情報に基づいて、英作文を書く問題の正答率が低い。</p>	<p>・自分の意見を英文で書く時間を確保し、書く習慣を定着させるとともに、文法や表現の指導を行う。</p> <p>・与えられた情報をもとに英作文を書く練習を多く取り入れていきたい。</p>

宇都宮市立横川中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

生活について

○睡眠時間については、「6時間以上8時間より少ない」と答えた生徒が65.9%であった。「8時間以上9時間より少ない」が21.2%、「6時間未満」が8.2%であることから、睡眠時間は確保できていると考えられる。

TV、DVD、動画視聴の時間については「1時間から2時間」と答えた生徒が33.2%で最も多かったが、「4時間以上」が16.3%で県の平均の14.4%を超えていることが心配である。

●「毎日、朝食を食べているか」の質問に対し、本校の生徒の82.7%が「はい」と答えている。栃木県の平均が80.8%であり、平均を超えてはいるが、朝食は欠かせないものであり、食べていない生徒がいるのは心配である。

●「ふだん(月～金曜日)、一日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をしますか」の質問の答えは、「4時間以上」…7.7%、「3時間以上、4時間より少ない」…6.3%、「2時間以上、3時間より少ない」…11.5%、「1時間以上、2時間より少ない」…13.5%、「30分以上、1時間より少ない」…18.8%、「30分より少ない」…23.6%、「携帯電話やスマートフォンを持っていない」…18.8%となっている。県の平均と比べて大きな違いは見られないが、携帯電話やスマートフォン、タブレット、PCなどインターネットを使えるものの使い方や家庭での約束等をきちんと考えていく必要がある。学校でも、それらを使用する上でのリスクやモラルなどをさらに指導していく必要がある。

学習について

○「家で学校の授業の復習をしている」の質問に対して、「はい」と回答した生徒は47.1%おり、市、県の平均を14ポイント程度上回っている。また、「授業で振り返りを行っている」の質問に対して、「はい」と回答した生徒は50.5%いて、市の平均を17ポイント上回っている。これは授業で「振り返り」を行う中で、「生徒に何が分かり、何が分からないのかを気付かせる」ことを各教科で行っていることで、家庭学習での自分の理解度に応じた復習の習慣に結びついていると考えられる。今後も、自分自身の学習状況をメタ認知させる活動を継続して行っていく。

○「授業ではクラスの友達との間で話し合う活動が行われている」の質問に対して、「はい」と回答した生徒は61.5%おり、市の平均を10ポイント程度上回っている。また、「授業では自分の考えを発表する機会が与えられている」、「クラスは発言しやすい雰囲気である」の質問に対して、「はい」と回答した生徒が、それぞれ46.6%、62%いて、両方とも市、県の平均を10ポイント程度上回っている。これは、生徒がお互いに自分の言葉で、最適解を見出すための協働的な活動を、「心理的安心感」を感じられる中で行っているからであり、今後も継続して対話的・協働的な学びを展開していく。

●「学校の授業以外に、どれくらい読書を読みますか」の質問に対して、「全くしない」と回答した生徒が32.2%おり、市、県の平均を5ポイント上回っている。朝の読書が5分間しかない中で、ビブリオバトルなどを学級活動などで行うことで、読書に親しむ習慣をつけさせていきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学びの場面での「めあて、振り返り」活動の充実。	・自主学習ノートにも「めあて、振り返り」を記入することで、自己の学習の理解度を客観的に確認させている。 ・各授業で「振り返り」を継続して行うことで、学習の理解度に応じた復習を行わせている。	・「授業の最後に学習したことを振り返る活動を行っている」の質問に対して、「はい」と回答した生徒は50.5%で、市の平均を17ポイント上回っている。 ・「授業の中で目標が提示されている」の質問に対して、「はい」と回答した生徒は80.8%で、市の平均を10ポイント程度上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・「授業以外で、どれくらい読書を読みますか」の質問に対して、「全くしない」との回答が32.2%おり、市、県の平均を5ポイント下回っている。	・図書委員会と協働した読書に親しませる活動の実施。	・ビブリオバトルやお薦めの本の紹介などによる、読書への啓発活動。